



# 雨よけ栽培の導入によるブドウ晩腐病に対する

## 殺菌剤散布回数の削減

農業総合センター園芸研究所

ブドウ樹上にビニールを被覆する雨よけ栽培を導入すると、ブドウ主要病害の一つである晩腐病に対して安定した高い防除効果が得られます。また、茨城県露地「巨峰」病害虫防除暦における「展葉2～3枚期」と「開花終期」の2回、さらに「果粒小豆粒大から袋かけ直前まで」の間に1回、合計3回の殺菌剤を削減できます。



写真1 ビニールを被覆した雨よけ栽培

ブドウの発芽後すみやかに樹上をビニールで被覆することにより、雨滴によるブドウ晩腐病菌の飛散・感染を防ぎます。ビニールの除去は梅雨明け後、袋かけが終了次第行います。

表1 雨よけ栽培を導入した場合の殺菌剤の散布方法

ステージ	時期	殺菌剤成分名(商品名)	希釈倍数(倍)
休眠期	(3月上旬)	ジチアノ水和剤(デランゴアブル)	200
発芽期	(4月上旬)	マンゼブ水和剤(ジマンガイソ水和剤)	1,000
展葉5～6枚期	(4月中旬～下旬)	キャプタン・セル水和剤(アリエティック水和剤)	800
開花直前	(5月上旬～中旬)	フェンキサミド水和剤(ハースト顆粒水和剤)	1,500
落花後		シプロジニル・フルジホリニル水和剤(スイッチ顆粒水和剤)	2,000
幼果期(小豆粒大)		シホキニル・ファモキサトニル水和剤(ホライズントライゴアブル)	2,500
幼果期(大豆粒大)		アゾキシストロビン水和剤(アミスター10ゴアブル)	1,000
袋かけ直前	(7月上旬～中旬)	シアゾファミド水和剤(ランマンゴアブル)	2,000
被覆除去後	(7月下旬)	銅水和剤(ICボルドー48Q)	50
収穫直後	(9月中～下旬)	銅水和剤(ICボルドー48Q)	50
落葉前	(10月)	銅水和剤(ICボルドー48Q)	50

\* 上記薬剤は、平成18年3月31日現在の登録農薬です。また、農薬の散布は、使用前にラベルを確認し、周辺作物に農薬がかからないよう注意して行いましょう。